

## 尺度使用マニュアル

### <尺度名>

Rumination-Reflection Questionnaire 日本語版

### <測定概念>

私的自己意識は、思考や概念といった内面的な自己に注意を向けやすい性質とされる。私的自己意識には適応的側面と不適応的側面があることが知られ、その両側面を測定するのが本尺度である。本尺度は以下の2つの下位尺度から構成される。①反芻(Rumination)：自己への脅威、喪失、不正によって動機付けられた、自己へ注意を向けやすい特性、②省察(Reflection)：知的好奇心に動機付けられた、自己へ注意を向けやすい特性。

### <適用範囲>

基本的に大学生。

### <尺度構成手続き>

Trapnell & Campbell (1999)の作成した Rumination-Reflection Questionnaire の24項目について原著者の許可を得て日本語訳を行った。翻訳に際してはバックトランスレーションを行い、意味内容の確認を行った。項目の追加・削除は行っていない。

### <信頼性>

$\alpha$ 係数は尺度全体で.90、反芻で.89、省察で.89であり十分な内的一貫性があるといえる。

### <妥当性>

大学生276名を対象とした質問紙調査において、反芻と省察はいずれも私的自己意識との間に相関が見られた(それぞれ $r = .55, p < .01$ ;  $r = .65, p < .01$ )。また、反芻は抑うつとの正の相関が確認された( $r = .52, p < .01$ )。さらに、反芻は神経症傾向と、省察は開放性との間にそれぞれ有意な相関を有していた(それぞれ $r = .73, p < .01$ ;  $r = .52, p < .01$ )。以上の結果は本尺度の妥当性を示すものである。

### <採点方法>

回答方法は、「1. 全く当てはまらない」、「2. 当てはまらない」、「3. どちらともいえない」、「4. 当てはまる」、「5. よく当てはまる」の5件法。各項目の合計をそれぞれの下位尺度の得点とする。逆転項目は、反芻尺度で項目6、9、10、省察尺度で項目1、2、5、8、12である。

<尺度の使用について>

教示文は、「以下の項目を読んで、それが自分の性質に当てはまる程度を考えてください。そして、最もよく当てはまるものを1つだけ選んで、選んだ番号を○で囲んでください。あまり考え込まずに思うとおりに回答してください」。

項目は改変すべきでない。

<出典文献>

高野慶輔・丹野義彦 (2008). Ruminant-Reflection Questionnaire 日本語版作成の試み パーソナリティ研究, 16, 259-261.

<連絡先>

高野慶輔 (東京大学総合文化研究科)

e-mail: takano@beck.c.u-tokyo.ac.jp

<無料・有料の別>

無料。

<著作権関連情報>

研究目的での使用は自由ですが、著者にご一報いただくと幸いです。また、尺度を使用した場合には利用を明記してください。